



芦屋市制 70 周年
絆が育む夢と創造のまち芦屋、70 年

みんなで選んだ

芦屋の未来遺産

～ 芦屋文化の100年リレー ～



芦屋ユネスコ協会

はじめに

(社)日本ユネスコ協会連盟は、100年後の子供たちへの贈り物として、長い歴史と伝統のもとに豊かに培われてきた地域(ふるさと)の文化・自然の遺産を伝える「未来遺産運動」を、国民的な運動として展開していきたいと考えています。

私たちの住む芦屋は、自然遺産・史跡と文化財・民話と歌物語・郷土資料・芸術文化・人物・祭り・災害・モダニズム&ライフスタイルも含め、日本でも有数の素晴らしい多くの未来へ伝える遺産を抱える、人口は少ないながら宝石のようなまちです。

芦屋ユネスコ協会では、芦屋市制施行70周年を記念して、市民の皆さんに芦屋の未来への遺産を選んでいただき、「みんなで選んだ芦屋の未来遺産 ～芦屋文化の100年リレー～」と題した冊子を発刊しました。

昨年10月より準備し、「市民が選ぶ芦屋の未来遺産」の募集をしましたところ、6月末の締切りまでに応募枚数592枚、応募延べ件数1,953件の応募がありました。

この冊子は、応募いただいた市民の皆さんが、芦屋の魅力や愛着をどこに感じ・継承していきたいのかを集大成したいと考え、今回皆さんの意向をリストアップして分野別に分類しまとめたものです。

応募の中には、多くの所感や芦屋に対する思いなどのご意見もお寄せいただきましたが、紙面の関係上代表的なものをリストの中に、掲載させていただきました。

発刊に際しましては、企画段階から芦屋市教育委員会の全面的なご支援ご協力を得ました。

また、芦屋市広報課より資料の提供を受けております。

さらに、郷土資料の学識者である信岡利英氏・岩本昌三氏・明尾圭造氏に、専門委員として多大なアドバイスと編纂監修作業のご指導をいただきました。

ご協力くださいましたすべての皆さんに、心から感謝申し上げます。

今回の冊子が市民の皆さんに、芦屋がいかに素晴らしいまちかを再確認していただき、誇りとして、未永く伝播・継承できる資料として活用されることを、願ってやみません。

今後ともわがまち「芦屋」を、全国的に発信してまいります。芦屋ユネスコ協会の活動に、この「芦屋の未来遺産運動」が加わることで、より充実したユネスコ活動が展開され、さらに皆さんのご理解とご協力が得られるよう、頑張ってまいります。

引き続きのご支援ご協力を、お願い申し上げます。

2010年11月

芦屋ユネスコ協会

会長 廣瀬 忠子

もくじ

はじめに

A : 芦屋の自然	1
B : 芦屋の史跡と文化財	15
C : 芦屋の民話と歌物語	21
D : 芦屋の郷土資料	25
E : 芦屋ゆかりの芸術・文化	29
F : 顕彰すべき人物	33
G : 芦屋のまつり	37
H : 芦屋の災害	41
I : 芦屋のモダニズムとライフスタイル	45
J : その他	49
付属資料	53
・ 応募用紙案内文	
・ 応募用チラシ	
・ 「市民が選ぶ芦屋の未来遺産」策定経過	
・ 芦屋未来遺産運動推進委員会 委員名簿	
・ 芦屋未来遺産運動推進委員会設置要綱	

おわりに

A: 芦屋の自然



奥池のススキ

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
【芦屋川に沿って】		
芦屋川	芦屋川	六甲山地にある源流に谷水をあわせて南下し、高座川と合流して河口にいたる全長約6km
芦屋川の自然	芦屋川	*芦屋川、奥池の自然を残して欲しいですね。 *芦屋川の景観、特に桜の木を大切にしていきたいです。
芦屋川周辺の自然	芦屋川	*芦屋川にはアユ・アマゴ・ゲンジボタル・カジカガエル・カワセミと5種の貴重な生物が棲息している。 ずっと伝えていきたい芦屋の自然遺産だと思います。
芦屋川の源流	芦屋川	芦屋市の最高峰、後鉢巻山(うしろはちまきやま)898.6mの手前、石の宝殿白山宮(はくさんぐう)の祠を下った付近が源流点で深山幽谷の趣があるところ。
ブナの自生地	芦屋川	芦屋川の源流に近く、芦屋唯一のブナが自生。六甲山では紅葉谷付近のブナが知られているが、南面の芦屋山地で見られるのは貴重
芦屋川近辺(川沿い・川畔)	芦屋川	・山から海に近く地形の急斜面が著しく、扇状地は著しく発達した芦屋川は、川床が付近の低地より数メートル高く、鉄道を敷設するために、東洋で初めて川床の底をトンネルで通過させた、いわゆる天井川風景 ・近代住宅都市としてみると、明るい台地、清浄な地下水、堤防上の松と地表水との風致が美しい。 ・治水のため、石垣の護岸や河床は敷石で埋められ自然の河川の風景は失われている。 *芦屋川周辺は市民の憩いの場。 自然とのつながりを感じられる場であって欲しいです。
芦屋川の川底を現在JR東海道線の走る“芦屋川トンネル”	芦屋川	芦屋川トンネルは明治7年(1874)完成、イギリスの新聞にもレンガ製造や組み立て工事のすぐれた技術を伝えている。
芦屋川沿いのサクラと松並木	芦屋川	芦屋川畔の松は、自然に育ったものばかりではなく昭和10年(1935)に業平橋まで400本もの松が植えられている。上流の桜は、戦後間もなくの昭和22年(1947)、市民の寄附によって植栽され、補植を続け、今日のみごとな桜並木となった。今では、まちを彩る桜並木も多い。
芦屋川畔の上流桜並木と下流松並木	芦屋川	
芦屋川沿い、本通り、川西町等の桜並木	芦屋川	
芦屋公園-松林と芦屋川	芦屋川	海辺と松林の風景
芦屋公園の松	浜芦屋町 松浜町	精道村時代の明治6年(1917)、松浜遊園が開設されたところで松浜の呼称のとおり白砂と松林で親しまれている。 *子どもの成長を見守る、芦屋公園の松を残して欲しい。
芦屋川の桜	芦屋川	業平橋より上流の桜並木は昭和20年代に市民からの寄付で植えられ、その後植えつがれて現在のみごとな桜並木となっている。 *「芦屋川の桜」「芦屋公園の松」はどちらも芦屋を象徴する景観である。
桜並木		ソメイヨシノは桜のなかで最もはなやかに咲いて「桜のトンネル」もつくる。芦屋川沿いの桜並木や市内の桜並木は、多くの人びとに親しまれる。

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
業平さくら通り		業平橋から芦屋川沿いに開森橋を渡り、川の右岸を南へ下り業平橋までの1.59km。在原業平と桜にちなんだ道路の愛称
業平橋の桜	業平町	“業平さくら通り”の愛称のとおり、芦屋川の桜並木を代表する風景。橋の南の松並木とのコントラストが美しい。
業平橋から見た芦屋川の風景		業平橋は、山と海が接する芦屋風景を実感するところ。北は桜並木と川畔の建物が山肌に映えるよう。南は河口へ向かって松並木が続く。
阪神芦屋駅から見た芦屋川の風景		芦屋川に沿った松並木と住宅のコントラストが美しい。 * 阪神芦屋駅からながめる景色(北は山, 南は海)は芦屋そのもの。住んでいて良かった! と思える瞬間です。
公光橋から見た芦屋川の風景		業平橋までの桜並木、左岸の教会や官庁街、更に北の山並みへと続く風景
芦屋川大正橋と河畔		松ノ内緑地に接し、JR芦屋駅へ通じる橋 桜並木の風景
芦屋仏教会館の屋上	前田町	天井川風景とともに市内360度を眺望
ホテルもいる芦屋川	芦屋川	
ゲンジボタル	芦屋川	芦屋川や宮川は、ホテルの名所で、むかしの和歌集にも歌われ、また業平の「蛍合戦の怪火」の伝説がある。
芦屋川のホテル	芦屋川	開森橋付近の川石にカワニナという淡水貝がいる。一時川の汚染で姿を消したが、水質改善でこの貝をえさとするゲンジボタルも放流などで見られるようになった。
開森橋のホテル	芦屋川	
高座川のホテル	高座川	
平家ホテルの生息地	岩園町	岩園町の田に生息。今は激減している。
開森橋から北へのながめ(山)		芦屋川と高座川の合流地点付近にはベージュ色の建物、国指定重要文化財「旧山邑家住宅」(ヨドコウ迎賓館)が建ち、また城山の鷹尾城跡を望む。
阪急芦屋川沿いの道路		“業平さくら通り”の愛称のある散策路
天然プール	芦屋川上流	川遊び *天然プール・芦屋川上流は、未来に残したい芦屋の自然です。
阪急芦屋川駅北側から開森橋上流までの桜	芦屋川	左岸にヨドコウ迎賓館、右岸に大僧橋から山芦屋公園へと続く桜並木は、城山の風景を彩る。
ヨドコウ迎賓館の風景	山手町	芦屋川の自然地形に調和した旧山邑家住宅(ヨドコウ迎賓館; フランク・ロイド・ライト設計)のたたずまい。
ライト邸のバルコニーから芦屋川を見る(桜)		現ヨドコウ迎賓館のバルコニー南端から見る芦屋川沿いの桜並木と街並みが美しい。
芦屋川から望む山と海(景観)		住宅地芦屋の代表的な風景 (花崗岩の明るい台地、松と桜並木、山と河口の風景)
松並木	芦屋川	業平橋から芦屋浜の河口への松並木が美しい。
芦屋川の下流の左岸に公園(松林)	芦屋川	芦屋公園
芦屋川河口の松並木	芦屋川	業平橋から芦屋川河口まで、「松風通り」は道路の愛称

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
芦屋公園の松林とぬえ塚のいしぶみ	浜芦屋町	「平家物語」には、ぬえ退治が2度書かれている。
芦屋公園から臨港線沿いの松林の保存		「摂津名所図会」には、ぬえ塚のほか松林がよくえがかれている。
芦屋公園と松		白砂青松の美しい風景は、しばしば近代文学にもとりあげられている。
松ノ内緑地	松ノ内町	芦屋川トンネルに面したところで、在原業平の桜をよんだ碑やしだれ桜で親しまれている。
旧崇信幼稚園の松	松ノ内町	元崇信幼稚園の跡地
松ノ内公園	松ノ内町	ボランティアのおかげでいつもきれいな公園
松ノ内公園の桜	松ノ内町	芦屋川畔の桜とともに市民の目を楽しませる。
芦屋川緑地	山芦屋町	ムクロジの高木があり、秋に球形の果実を落とす。
潮見桜	東芦屋町	芦屋の名木として地誌にも紹介された。潮見の名称は塩通山法恩寺に由来する。
芦屋川の葦	芦屋川	かつて、葦が生い茂る湿地のある芦屋の浦や芦屋の里は歌にもよまれ、親しみのある地名となった。
芦屋川の水質	芦屋川	*芦屋川をきれいな水に保って欲しいです。
松の内緑地の黒松と矢穴入り石	松ノ内町	緑地内に若木黒松3本と矢穴入り石がある。
美しい景観(山・海)		起伏に富んだ芦屋の地形と山と海。風光に調和した街並み。
芦屋川のかわせみ・せきれい(鳥)	芦屋川	芦屋川の河原に、せぐるせきれいなどが見られ、また、かわせみは「空飛ぶ宝石」の名にふさわしく、水中の魚を早業で捕らえる。
カワセミ		
芦屋浜の潮干狩り	芦屋浜	漢人の浜の伝承、遠浅の海岸、潮干狩りでにぎわう。
潮干狩りの出来る浜辺	芦屋浜	
芦屋浜	芦屋浜	かつての芦屋浜海水浴場、地曳網風景がみられた。
芦屋川開森橋	東芦屋町	開森橋周辺は、自然景観とともに生活文化の足跡が豊か。
芦屋川上流の貯水池？みたいな所	芦屋川上流	天然プール
芦屋川上流の川遊びが出来る所	芦屋川上流	
上流で生息しているアマゴ	芦屋川上流	サケの仲間、もとは芦屋川にいなかったが、放流によって上流部に水が清浄なこと、アマゴの餌となる水棲昆虫がいることなどで生息
海から遡上する天然アユ	芦屋川	毎年5～6月頃、海から遡上し、業平橋近くまで上がる。石に生えたコケなどを食べて成長する。
芦屋浜の風		道路の愛称にも「芦屋川松風通り」「潮風通り」の名称がつけられている。
芦屋川のカモ親子		芦屋川河口の芦屋浜には、オナガガモはじめカモのなかまが多く見られる。

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
芦屋の森林～芦屋川 ～河口の海浜		松林の続く芦屋川左岸に沿って芦屋浜河口へ。現在は、このあたりは湾岸状に変わり、干潟には小さい生きものがある。また飛来するカモなどの姿も見られる。
阪急芦屋川にいるツバメ	月若町	芦屋にいるツバメは2種類で、よく見かけるツバメの他にコシアカツバメが山地に多く見られる。普通ツバメの巣は皿形、コシアカツバメはとっくり形
阪急芦屋川駅にあるツバメの巣	月若町	
天井川	芦屋川	川床が付近の低地より数メートル高い天井川風景
芦屋川から見た甲山		
開森橋からの芦屋川の景観		北は起伏に富んだ地形に建つ住宅。ヨドコウ迎賓館や城山の風景。南は阪急電車芦屋川駅と桜並木など明るい風景が広がる。
開森橋から山を見た桜並木		兩岸を埋めるようなソメイヨシノの开花は、山のみどりとのコントラストが美しい。
平田橋から芦屋川、六甲山を望む		六甲山を借景に芦屋川畔の松林に調和した住宅のある風景
芦屋川JR南の蒲・草原(河川敷)		芦屋川トンネルのある天井川風景、桜並木に生える河川敷の清流
芦屋川河原の風景		伏流水のため日頃は水量は少ないが、場所によっては上流から押し流された花崗岩の土砂が堆積している。兩岸の松や桜並木の調和した風景を見る。
市の木 クロマツ		ベージュ色の花崗岩台地と川畔によく映えるクロマツは、芦屋の風景を代表する。市制30周年、芦屋市は市の木に「クロマツ」を、市の花に「コバノミツバツツジ」を制定した。
松林(芦屋市庁舎の側)	精道町	
芦屋浜の緑道から浜辺の遊歩道までの道	芦屋浜	海辺の散歩道
芦屋川沿いの梅	芦屋川	
山手中学校から見る芦屋の夜景		
芦屋川から見る山芦屋の夜景		山手丘陵地から見る夜景、またシーサイドタウンの高層住宅から見る夜景など、山と海がせまる芦屋のまち並みのパノラマ夜景は、光と影のコントラストがすばらしい。
高浜の高層住宅からの夜景		
若葉町高層住宅からの夜景		
芦屋川松風通りの黒松並木		芦屋川畔の松並木は、古来多くの人々に親しまれ、文学の舞台にもなっている。 松風通りは、業平橋から芦屋川の河口への左岸・右岸
芦屋浜の松並木	芦屋浜	芦屋公園もしくは潮芦屋ビーチのこと
芦屋川河口の生きものたち	芦屋川	芦屋川河口には干潮の時、わずかに干潟が現れ、カニや貝など小さい生きものが見られる。海岸を生活の場にする鳥たちも。付近の地形の変化で、カモのなかまの飛来にも増減が見られる。

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
【城山・高座の滝・ロックガーデン】		
城山登山	城山	開森橋あたりから芦屋川の右岸に沿って北へ。道標に従いやがて右「城山登山口」とある。なだらかな坂道の尾根筋をゆっくり登り、標高約260mの頂上へ。大阪湾を一望する。
城山親子登山(西山幼稚園)	城山	このあたり、戦国時代の古戦場「松若物語」の舞台、鷹尾城跡
高座の滝とその道程		阪急芦屋川駅から芦屋川の右岸に沿って北へ、道標に従って右、「城山登山口・高座の滝」とある。駅から20分余で滝に着く。滝は高さ10m余の夫婦滝
高座の滝から城山へのハイキングコース	城山	高座の滝のそばの大谷茶屋から城山の尾根をたどる。 * 高座の滝には、毎日早朝歩きして一日が楽しく過ごしています。また、城山には沢山の方が登り、脚を鍛えています。
城山の頂上からのながめ	城山	国有林、頂上から大阪湾を一望
城山のツツジ	城山	市花コバノミツバツツジをはじめ、ヤマツツジやモチツツジが城山の自然を彩る。
高座の滝	六甲山地 東部	<ul style="list-style-type: none"> ・高さ10m余の夫婦滝、このあたりでむかしの修験関係の遺物が出土 ・市花、コバノミツバツツジの風景 ・阪急芦屋川駅から約20分、城山の麓をたどるコース * 高座の滝は涼しい風が吹きぬけ、水(滝の音)が心を癒してくれる場所です。
高座川	高座川	城山・荒地山とロックガーデンの間を流れる川で谷筋の植物や昆虫などが多く見られる。高座の滝への谷筋
ロックガーデン	六甲山地 東部	ロック・クライミングクラブ 大正13年(1924)発祥の地
芦屋ロックガーデンと高座の滝	六甲山地 東部	ロックガーデンは芦屋川と魚屋道の間、南は高座の滝付近 北は荒地山までのあたり 高座の滝は高さ10m余の夫婦滝
高座橋	山芦屋町	芦屋川の右岸を北へ会下山の道標を見て、山手中学校へ通じる道に高座橋がかかっている。
荒地山の頂上からのながめ	荒地山	城山の尾根続きの岩場、芦屋の民話「七右衛門ぐらのたたり」の舞台
荒地山周辺の三湧水	荒地山	城山から荒地山へ十楽水や陽明水など、花崗岩をくぐって湧き出す水は場所にふさわしい名称がつけられ、憩いの場となっている。
風吹岩	六甲山地 東部	魚屋(ととや)道の最高峰から少し東南へ下がったところ。眺望がよく大阪湾やロックガーデンの岩場などの風景が広がる。

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
【奥池周辺】		
奥池	奥池	<p>・野鳥と植物の宝庫, りす・きつつき・野うさぎもいる。</p> <p>・猿丸安時は, 水争いを解消するため, 20年の歳月をかけて奥池の開削に成功した。</p> <p>・大坂城石垣用の刻印石が残存する。ゴロゴロ岳付近</p> <p>・劔谷森林気象観測所跡 人間灯台と呼ばれた池野良之助氏の足跡</p> <p>昭和10年(1935)から38年間,ゴロゴロ岳で気象観測と山火事看視を続けた。</p> <p>*奥池に住み, 毎日同じ場所を散歩していますが, 日により時間, 季節と変化に富み, 毎日が発見の楽しさがあります。未来に守り伝えていきたい自然です。</p>
奥池の自然と動物・歴史	奥池	
奥池のキャンプ場	奥池	
奥池の山	奥池	
奥池の自然	奥池	
奥池・芦屋の山々・城山	奥池	
奥池と築堤	奥池	
奥池公園	奥池	
奥池と周辺一帯(貯水池など)	奥池	奥池に隣接して, 昭和46年(1971)に奥池の4倍以上の貯水量のある奥山貯水池が完成, 周囲約1kmは散策路にもなっている。
イモリ池, サギスゲ生息地・日本の西限	奥池南町	氷河期の残留植物で日本の西限にあたる。
イモリ池	奥池南町	湿地の貴重な動植物トキソウ・ミミカキグサ・オオミズゴケ・イモリ・サンショウウオ・ハッチョウトンボなどが見られる。
(フィールドアスレチック跡地) ユバノミツバツツジの群生地	奥池町	奥池からイモリ池方面への入口付近, 白い花崗岩の斜面に小さい紅紫色の花が群生して美しい風景を見せる。
ごろごろ岳(岩)	国有林	標高565.6mの語呂合わせで「ゴロゴロ」となり, また巨石がごろごろしている説, 雷の擬音「ゴロゴロ」から名づけられた説などがある。
弁天岩	奥山	バス停の水車谷から北へ芦有道路の大きいへアピンカーブをまがったあたりの左, 山側に弁天岩が, また谷筋にフカキリ岩(まないた岩)の巨石がある。古来からの雨乞い民間伝承の地
フカ切り岩	奥山	雨乞い伝説の地で「まないた岩」と呼ばれた巨岩から流れ落ちる滝はみごとで落差10m余の大きい滝
お多福山ハイキングコース	奥山	【土樋割峠より東お多福山付近の自然】 東お多福山登り口から西へ, 土樋割峠から南へ。東お多福山山頂へのコースは, 動植物が豊かで, また様々な昆虫や野鳥が見られる。
お多福山のススキ	奥山	お多福山のハイキングコース(前出)の植生

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
【宮川に沿って】		
宮川の自然と歴史	宮川	宮川は、剣谷あたりを源流に、水道橋付近で他の川と合流し、川幅を広げながら河口まで約3kmを下る。現在、シーサイドタウンにかかる宮川大橋は、芦屋市内最長の橋で、波のデザインが周辺の風景に調和している。(自然) 宮川は、かつて打出川・都川・呉川とも呼ばれた。旧西国街道は、この地で白砂青松の海に出た。宮川に沿って神社・石造品・民話などさまざまな生活文化の足跡がしのばれる。(歴史)
宮川橋・宮塚橋付近の魚	宮川	魚が生息できる所は、国道43号線以南の下流に限られ、オイカワやヨシノボリ、フナなどが生息
宮川右岸の河川敷の植物	宮川	ここでは、芦屋川同様ほとんどが帰化植物だが、アシの小群落やマメ科・シソ科などの植物が見られる。
汐風橋以南の鳥	宮川	芦屋川と異なり、汐風橋から河口までが運河状になっているため、幾分違いが見られる。飛来する鳥は、カモのなかま・カモメのなかま・サギのなかまなど。
宮川の桜並木通り	宮川	新しい芦屋の桜通り。宮川に沿って、ケヤキや桜など街路樹も多く、親しまれている。
宮川けやき通り	宮川	ケヤキなど街路樹が多い道路で、宮川に沿って北へ、岩ヶ平丘陵へ向かう。
宮川の生きもの(ボラ・とりなど)	宮川	春にはボラの幼魚のイナの大群が遡上してくる。また、汐風橋から河口付近にはカモやカモメの仲間が飛来してくる。
【その他の公園,道路,並木, 風景など】		
芦屋の自然		地形, 地質, 植生, 景観など多様
芦屋公園	浜芦屋町 松浜町	国道43号線から河口付近まで芦屋川沿いに続くこの公園は、樹齢150年余の市木クロマツなどが茂り、一角には怪物が流れ着いたという「ぬえ塚」がある、歴史とロマンいっぱい公園
芦屋公園(遊園も含む)		*芦屋公園(遊園も含む)は子ども達の遊び場として、子育てをしたとても思い出深い公園。未来へ残したい。 *芦屋公園はとても広くて、自然に恵まれていて、珍しいと思います。是非、未来の遺産として残してもらいたいです。
岩ヶ平公園(バラ園)	岩園町	アメリカモンテペロ市と姉妹都市提携した昭和30年(1955)に、モンテペロ市の市花のバラが贈られたのを記念して開園。 桜と紅葉とともに親しまれている。 また、朝日ヶ丘集会所に通じる東付近に岩園北公園がある。
岩ヶ平公園の桜とバラ園	岩園町	
岩園公園・岩園北公園	岩園町	
西浜公園(睡蓮・しょうぶ園)	潮見町	日本庭園風の池があり、あずまや・ベンチでは滝の音、芝生の緑、水面の輝きなど自然を満喫することができる。
西浜公園の池のある風景	潮見町	
打出公園(動物)	打出小槌町	かつて“おさる”のいる公園といわれた。
前田公園	前田町	平成15年(2003)に整備された新しい公園 弥生時代前期の前田遺跡の上であり、解説板も存在

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
松ノ内公園・宮塚公園・打出公園・楠公園		まちと公園の織り成す美しい調和が人々にふれあいをもたらしている。 *松ノ内・宮塚・打出・楠公園は、いずれもかつてのお屋敷跡の垣が残されており、門や勝手口を思わせる石段も存在している。
南芦屋浜・中央・東浜・西浜等の公園		文化とスポーツを堪能する、感性豊かな街並みの中の公園
清水公園	清水町	かつてこの地を流れていたいくつもの小川は、今では地下水脈となり、ほんのひとときこの公園でせせらぎとなって地表に戻る。
清水公園(太陽パネル)噴水と小川	清水町	
親水中央公園	南浜町	小川が流れる開放的な公園
大東公園	大東町	芝生が敷き詰められたお花見広場のある公園
南宮公園	南宮町	江尻川緑道と一体となって、緑を守っている公園 *大東公園や南宮公園は子どもがいつも遊んでいるところで、桜も綺麗で喜んでいます
芦屋中央公園	若葉町	市内の公園の中で一番大きく、野球場もある広々とした公園
月若公園	月若町	公園内にホトギス三代句碑、芦屋川のサクラ、ソメイヨシノに対比してオオシマザクラが植えられている。
東山公園	東山町	鳥の鳴き声、虫の音色が楽しめる森林公園
芦屋上流の緑地公園		松ノ内緑地か山芦屋公園のこと
楠公園	楠町	ブランコに乗りながら、電車が見えるように工夫されている。
芦屋市総合公園	陽光町	南芦屋浜地区の北西角にあり、樹木が持つ大気を浄化する機能を利用した「大気汚染対策緑地」
キャナルパーク&陽光緑地	陽光町	生活の中での散歩道と癒しシーサイドタウンと六甲山を望む。
芦屋キャナルパーク (カヌー)	陽光町	南芦屋浜地区の埋め立てにより整備された。マリンスポーツの場として賑わっている。 *平成18年度(2006)の兵庫国体で芦屋はカヌーでした。そのお手伝いをした時、日本全国から来られた多くの選手に「芦屋キャナルパークは素晴らしい水路ですね」と言われました。いつまでも今の景観が続けばいいなと思います。
潮芦屋ビーチ	潮芦屋	白砂青松の復活をイメージしてつくられた人口砂浜
潮芦屋	潮芦屋	
潮芦屋ビーチ及び総合公園	潮芦屋	総合公園では夜間照明も完備され、各種のイベントが開かれる。
潮芦屋ビーチベルポート 芦屋マリーナ	潮芦屋	マリーナには多くのヨットやクルーザーが係留されている。
仲ノ池	岩園町	池の改修前の生物相と現在では外来魚の侵入などで変化が見られる。池が埋め立てられる兆しがあったが住民の力で守り、現在に残る。
仲ノ池緑地	岩園町	かつて3つの池があった。マコモやアシなど万葉植物もある。緑地公園付近の樹木に、ヤマガラやメジロなどの野鳥が飛来する。

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
芦屋霊園	朝日ヶ丘町	明るい公園墓地, 桜の名所
さくら参道	朝日ヶ丘町	市霊園への参道。開花期“さくらトンネル”で親しまれる。
山手南緑地	山手町	
山手緑地	山手町	整備された庭園は憩いの場となっている。 *旧藤井邸は震災で被害を受けたが, 洋館だけが山手緑地内に残されている。貴重な文化財。
臨港線沿いの緑地		緑地の南はシーサイドタウンが広がり, 北は図書館などの文化ゾーンに接している。この道は, かつての潮騒とともにさまざまな生活文化史を伝える。
岩園隧道	岩園町	西宮市苦楽園へとつながるバス道のトンネル
岩園保護樹林	岩園町	八十塚バス停の南に広がる山林で静かなたたずまい。樹林内に古墳も保護されている。
岩園緑地	岩園町	
岩園天神社(森林含む)	岩園町	境内に6世紀頃の古墳や役行者の碑がある。 常緑広葉樹の森 *岩園天神の森は常緑広葉樹の極相林です。
岩ヶ平の池(岩園天神社北側の池)	岩園町	周りを松林に囲まれ, 池の中ほどに石灯籠が立ち「とうろう池」と呼ばれた。カルガモ・カワセミや時にはアオサギも見られた。震災で被害を受けた。
前山公園と周辺になるリンドウ峠	劔谷	現市道山麓線が走る
街路樹		市域には, マツ・サクラ・ケヤキ・イチョウなどの街路樹が植えられ, 並木道の散策が楽しめる。
宮塚公園の桜	宮塚町	中央線のイチョウとともにサクラが美しい広々とした公園
呉川両側の桜	呉川町	
芦屋市霊園のサクラと観音像	朝日ヶ丘町	芦屋観音や戦災慰霊碑, 外人墓地などサクラの名所
茶屋之町の桜並木	茶屋之町	JR芦屋南口への駅前線, 県立芦屋高校に沿った道で旧西国街道とまじわる付近
県立芦屋高校の横の桜並木	宮川町	
キャナルパーク 桜の植樹	浜風町～ 陽光町	新しい桜の名所
六麓荘交差点北側のしだれ桜	六麓荘町	
市の花 コバノミツバツツジ		市の花として市制30周年(昭和45年)に市の木「クロマツ」とともに「コバノミツバツツジ」(小葉の三葉)が制定された。桜咲く頃, 淡い紅紫色の小さい花を咲かせる。
六麓荘里山公園のコバノミツバツツジ	六麓荘町	
並木が多いこと		市内には並木道も多く, 散策路になって親しまれている。

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
イチョウ並木		イチョウは中生代ジュラ紀に栄えた植物で「生きている化石」と言われている。黄葉のイチョウ並木
中央公園の桜並木	若葉町	
平田北町4番～2番八重桜の並木	平田北町	
自然の木		四季折々の表情をのぞかせている。
鳴尾御影線のケヤキ		ニレ科の落葉高木, 街路樹
キャナルパーク南公園の樹木	陽光町	キャナルパークの陽光緑地のこと
公園の梅林		中央公園の梅林のこと
エノキ(アーバンライフ南)	西山町	ニレ科の落葉高木
西山町17・10の芦屋アーバンライフの天然木(樹)	西山町	*昭和50年(1975)頃には玉虫が飛び交っていた。(棲息)
阪急芦屋川駅近くのコケの生えた木		
神戸屋前の道あたり 高い木	大原町	宮川けやき通り
はなみずき通り	呉川町	はなみずきは明治時代から日米親善の花木として知られている。公園や街路樹に植えられ, 春に白やピンクの花(4枚の総苞片)を開く。別名:アメリカヤマボウシ
江尻川緑道	南宮町 大東町	道路の愛称は江尻川若草通り, 臨港線の南宮町, 大東町の江尻川緑地との支点を北へ, 国道43号までの0.55km
芦有道路(東六甲展望台)		文化都市芦屋と湯ノ町有馬を結ぶ道
朝日ヶ丘の地(この坂)	朝日ヶ丘町	市民プール前への坂道や壺園への坂道など東西南北を結ぶ坂道は住宅地発展の方向を示す。
岩園隧道より芦屋方面へ登るバス道沿		ゆるやかな坂の並木道は, さわやかで昔ながらの地形のおもかげを残す。
岩園町へつづくバス道の並木道		
シーサイド中央緑道(緑町)	緑町	*公益灯No.50-49(高層を見る)
シーサイド中央緑道(新浜町)	新浜町	*公益灯No.54-55(浜風小学校を見る)
中央緑道	芦屋浜	
芦屋岩園隧道から山手町に至る山麓線道路		六麓荘町～山手町のこと
芦屋野鳥の森		芦有道路沿いの森
山と海が間近に見えるセレブな街		住宅地芦屋の地形は山と海が接し, 起伏に富んでいて自然環境にめぐまれ, 都市機能にすぐれたまちとして発展している。
芦有道路からの夜景・景色		芦屋と有馬をわずか20分で結び, 夜は光の帯が連なる。
六麓荘の景観	六麓荘町	昭和4年(1929), 株式会社六麓荘は新しい住宅のまちを建設そのパンフレットに「六麓荘は大自然の庭園のようにめぐまれた健康地」として紹介された。明るい空とみどり, ベージュ色の花崗岩が映える近代住宅地
芦屋壺園から海をのぞむパノラマ		芦屋壺園の展望台からパノラマ風景が楽しめる。

A: 芦屋の自然

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
三条地域の古い町並み	三条地域	江戸時代からの町並みを伝える自然と歴史的景観
JR芦屋駅の北側付近近代的な町並み		アルパ, ラポルテ, ラリーブなど芦屋にふさわしい都市機能をそなえた町並みがすすめられている。
芦屋警察署がマッチする芦屋の町並み		近代建築のおもかげを伝える「住宅地芦屋」の町並み
阪神電車芦屋駅より芦屋川の南北を見る風景		芦屋川河口と六甲山の風景など
陽光町から甲山を望む山景色		
キャナルパークからの眺め		
六甲山(山麓)		芦屋のまちは六甲山地を背山に芦屋川や宮川が流れ、自然環境にめぐまれ、住宅都市として発展してきた。
芦屋神社・壺園コース		芦屋神社東側の道路を北へ、山手緑地から山麓グリーンベルトをたどり壺園へ自然と歴史をたどるコース
親王塚・岩園天神コース		阿保親王塚の西側道路を北へ、水道橋を経て岩園北公園付近から岩園天神社へ自然と歴史をたどるコース
潮風とあし湯コース		緑地と砂浜、せせらぎのある公園、海洋リゾート気分が味わえるマリナー、天然温泉の足湯など変化に富んだコース
砂浜	芦屋浜	かつて海岸が埋め立てられる前は、白砂の海岸が打出まで広がっていた。現在は、河口付近の様子も変わり、湾岸状の海となっている。
海岸線の保存	芦屋浜	
打出浜の砂浜	浜風町	「打出」というのは海岸線の地形が打ち出すの意
山の保存		
ルナホールをつた(外壁)	業平町	ルナ・ホール、市民センターの歴史を伝えるアイビー ルナ・ホールは昭和45年(1970)3月竣工、ナツヅタはその時に植えられた。
なかよし広場	山芦屋町	芦屋市の苗圃地として花苗が育成されている。
イノシシ		かつて高座の滝付近で、親子づれのイノシシが話題を呼んだが、餌付けがなくなり、あまり市街地に現れなくなった。
打出天神社周辺	打出小槌町	金津山古墳・旧西国街道・打出図書館(登録文化財)打出小槌古墳跡など *打出天神さんの横手を通る道が楽しいカラーロードは、未来へ残したい。 *打出駅から親王塚町方面周辺にある「金津山古墳」「打出天神社」「図書館打出分室」「大楠公戦跡」「阿保親王塚」などの景観
呉川町の用水路(小川)	呉川町	
高層ビルにさえぎられない広い空		

B: 芦屋の史跡と文化財



旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）食堂暖炉

B: 芦屋の史跡と文化財

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
ヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)	山手町	アメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトの原設計による。鉄筋コンクリート造りとしては、日本初の国指定重要文化財
会下山	三条町	弥生時代中～後期の高地性集落跡 戦後考古学の典型的な高地性集落調査
会下山弥生時代住居址	三条町	
会下山の弥生遺跡	三条町	
会下山遺跡	三条町	
市立山手中学校裏山にある会下山遺跡と復元高床式倉庫	三条町	標高約200m, 復元された高床式倉庫がある。
会下山遺跡と土器, ガラス玉	三条町	住居跡・祭祀跡から多くの土器・石器や鉄器などが出土
会下山遺跡出土青銅製漢式三翼鏃	伊勢町	芦屋市教育委員会所蔵 美術博物館保管
芦屋神社(水神社)	東芦屋町	猿丸太夫碑, 山勝祭の山論など歴史を秘める。
芦屋神社のコバノミツバツツジ(市花)と古墳	東芦屋町	桜の開花とともに咲くコバノミツバツツジは境内を彩る。境内には横穴石室を主体部とする古墳のほか, 猿丸太夫碑, 山勝祭の山論など歴史を秘める。
阿保親王塚	翠ヶ丘町	親王寺に伝わる鏡などから前期の古墳と推定されている。 *阿保親王塚など, 素晴らしい史跡をもっとアピールして下さい。
阿保山親王寺	打出町	承和11年(844)阿保親王の住地に建立されたと伝えられる。市指定文化財ほか, 様々な墓石が見られる。震災で被害大
親王寺所蔵考古資料	打出町	銅鐸・鏡など市指定文化財
親王塚(ウバメガシ)	翠ヶ丘町	芦屋の原植生の名残にウバメガシ林が見られる。
打出図書館(旧松山家住宅)	打出小槌町	登録文化財の石造建築物, 元大阪逸見銀行の建物
芦屋仏教会館	前田町	芦屋崇信会が母体, 昭和2年(1927)に落成 鉄筋コンクリート3階・地下1階
打出天神社	打出小槌町	江戸時代地誌に「生土神(うぶすな)」とある。
金津山古墳(市指定文化財)	春日町	外周二重濠・帆立形の前方形墳
八十塚古墳群	岩園町	古墳時代後期～飛鳥時代の群集墳(横穴式石室) 朝日ヶ丘町・六麓荘町などにも広がる。
万葉仮名の八十塚橋銘	岩園町	江戸時代の地誌に「八十塚(やそづか) 数の多きより名とす」とあり, 古墳時代後期の群集墳の分布するところとして知られる。 八十塚橋は, 昭和年間の架橋である。
八十塚橋	岩園町	
猿丸太夫と百人一首	東芦屋町	百人一首で知られた猿丸太夫は芦屋に住んだと伝えられている。芦屋には旧家の猿丸家がある。伝猿丸太夫之石塔もある。
伝猿丸太夫之墓		
猿丸安時頌徳碑	東芦屋町	奥池の開削に成功した猿丸安時の頌徳碑 (奥池と自然と動物の項参照)

B: 芦屋の史跡と文化財

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
大楠公戦跡(碑)	楠町	楠木正成が湊川で討ち死にする直前、足利尊氏と打出で戦ったことが「太平記」に記されている。 この石碑は、昭和12年(1937)5月に建設された。阪神淡路大震災で倒壊したが、その後復元された。
太平記		
打出合戦と大楠公戦跡地の碑	楠町	
打出合戦の跡	楠町	
水車谷石臼	山芦屋町	江戸時代から急流を利用して酒造用の精米や菜種油しぼり、小麦粉を使ったそうめんづくりなど水車産業がさかんであった。「金兵衛車やけ車」の民話も伝えられている。 三条町・山芦屋町を中心として、当時水車場で使用されていた石臼や水路跡などが残っている。
水車臼跡	山芦屋町	
水車関連遺跡	山芦屋町	
水車谷遺跡	山芦屋町	
酒米に用いた石臼が石垣に	山芦屋町	芦屋川の急流を利用した水車産業のなごり
芦屋川上流石臼	芦屋川上流	
水車谷	水車谷	バス停の名称に水車産業の名残を知る。
西国街道(道の歴史)		西宮から本市東端に来て2本に別れ西進。道路沿いには石仏や五輪塔など。本街道と浜街道があった。
伝芦屋廃寺塔心礎	伊勢町	芦屋市立美術博物館の前庭におかれている。 県指定文化財の奈良時代の塔心礎
芦屋廃寺	西山町	創建時の伽藍は法起式の可能性
芦屋廃寺跡と土器、瓦・塔心礎	西山町	奈良～室町時代の瓦が出土している。創建は白鳳期まで遡る。
大坂城の石の切り出し場	奥山・六麓 荘町・岩園 町・三条町・ 山芦屋町	現存する徳川大坂城石垣に芦屋の石が多く使われ、市内各所に残存する刻印石・割石や採石遺構からも生産地であったことがうかがえる。 海岸は石材の船出し場として意義があったと考えられる。
徳川大坂城石切場		
臨港線と花水木通り交差部の築城石(大坂城刻印石)	呉川町 西蔵町	
朝日ヶ丘遺跡	朝日ヶ丘町	山麓台地にある縄文時代の遺跡、朝日ヶ丘集会所には出土品やパネルを展示 *朝日ヶ丘の縄文遺跡は、もうボロボロですが、きれいに作り直して保存しもっと広報した方がいいと思います。
打出小槌古墳	打出小槌町	埋蔵文化財調査で発見された5世紀末の古墳。前方後円墳と特定された。 人物埴輪や緑彩色の形象埴輪が出土
打出小槌古墳と埴輪	打出小槌町	
三条八幡宮	三条町	三条町の氏神、境内に「尼崎領界石」や「六甲クロガネモチ」の碑と刻印石などがある。
八幡神社	三条町	元禄の「寺社改帳」に記述
日吉神社石祠	津知町	巖島神社屋根(石祠)に芦屋最古の金石文、中世の永正17年(1520)の銘。市指定文化財
日吉神社	津知町	
小阪家住宅	三条町	江戸時代の民家で市内現存最古であった。市指定文化財 阪神大震災で解体された。
芦屋の文化財		自然、建造物、史跡、歴史、民俗資料など多様

B: 芦屋の史跡と文化財

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
尼崎藩領界石	三条町	八幡神社境内に「従是東尼崎領 西尼崎領 他領入組」と刻まれた高さ約2mの石碑がある。
石仏	春日町	かつて西国街道(浜街道)に面して石仏, 道標などがおかれていた。
芦屋市内全遺跡		
打出堂ノ上の銅鐸	楠町	江戸時代宝永年間に発見された流水文銅鐸(高さ45.3cm) 現親王寺所蔵
延命地藏	打出小槌町	西国橋東詰に安置延享2年(1745)の在銘
打出金津山古墳と親王塚	春日町 翠ヶ丘町	古墳時代, 芦屋地方の有力豪族の墓
観音堂	三条町	「観音さんに助けてもらった牛」民話の舞台
三条観音堂	三条町	
徳川大坂城毛利家採石場出土石材	劔谷	大坂城石垣用に芦屋の石が多く使われた。
市民センター前庭の刻印石	業平町	
どんだん川から出てきた 大坂城築城に使われた大名紋の ある大きな石	六麓荘町	刻印石は美術博物館の庭にも“時を結ぶ”と題して設置
劔谷の植林跡石積み	劔谷	
呉川町南地にある大坂城のための 刻印石	呉川町	「大坂城の石の切り出し場」の項参照
城山遺跡	城山	・標高260m頂上付近に弥生時代の遺跡 ・古墳時代後期～終末期の古墳群 ・中世の城跡・古戦場(鷹尾城跡)
城山の山城跡	城山	
三条・城山古墳群		
高浜虚子三代句碑	月若町	ホトギス親子三代句碑(高浜虚子・年尾・汀子) 昭和55年(1980)4月建立
句碑(芦屋川)	月若町	
業平橋	芦屋川	在原業平にちなんだ橋の名称
業平をしのぶ碑を含めた緑地 (元崇信幼稚園跡)	松ノ内町	緑地内に業平の有名な桜をよんだ碑がある。
鷹尾城(跡)	城山	「松若物語」の舞台, 中世の古戦場
古墳群の上に出来た芦屋	市域	
新羅印花紋陶質土器	山手町	列島内で屈指資料の一つ, 芦屋と朝鮮半島 新羅との交流を示す物的遺産。山手町から出土
津知遺跡と和同開珎	津知町	旧石器時代から江戸時代の複合遺跡 和同開珎など古代の特色のある遺物が多い。
四季耕作図屏風 六曲一双	伊勢町	芦屋市立美術博物館蔵 市指定文化財
三好長康山論裁許状(附・狭板)	伊勢町	芦屋市立美術博物館蔵 市指定文化財
山手緑地の化石層	山手町	庭の東, 池の石面に古生代のフズリナ(紡錘虫類: ぼうすいちゅうるい)化石が見える。
六条遺跡と土器	清水町	祭祀に用いられた墨書土器 井戸から出土

B: 芦屋の史跡と文化財

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
芦屋壺園にある戦没者墓地	朝日ヶ丘町	昭和33年(1958)5月, ヒナ壇式の軍人墓地 昭和45年(1970)7月, 「太平洋戦争空爆殉難者之墓」が建設されている。
打出駅から親王塚町方面周辺		周辺に「金津山古墳」「打出小槌古墳跡」「打出天神社」「市立打出図書館」「大楠公戦跡」「阿保親王塚」などの景観
三条岡山遺跡と子持ち勾玉	三条町	5世紀の埴輪を伴う古墳群や祭祀遺構と中世居館が確認されている。
三条九ノ坪遺跡と木簡	三条町	『壬子年』(652)と記された木簡が流路から出土 じんしねん
芦屋の史跡と文化財	市内	はるか原始・古代から営まれた芦屋の歴史は, 史跡や文化財として, 今日新しい文化の創造につながっている。
寺田遺跡と市内最大の須恵器(甕)	三条南町	山手幹線の事前調査で出土した。高さ1m近く。
山の神		信仰。一般的に山の神は春は山から里におりて, 田の神となり, 秋の収穫が終わると, また山の神になる。 小さい祠を祭るところもある。
薬師寺	東芦屋町	元塩通山法恩寺(西山町)の薬師堂で昭和11年(1936)に現在地に移転。境内に石棺仏や室町時代の石造品等がある。
普門山宗円寺	三条町	
石碑	市内	石ぶみや石造品。旧道に面して道標や石造品が点在し, 神社や境内などに記念碑がある。
毛利家家紋の入った刻印石	壺園増設墓地	家紋を簡略化した文様 市指定文化財 芦屋壺園に所在

C: 芦屋の民話と歌物語



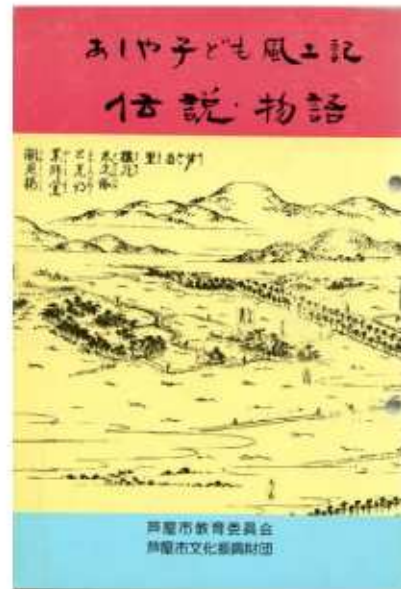
『若鶴百人一首』安政3年(1856) 芦屋市立美術博物館蔵

C: 芦屋の民話と歌物語

名称	市内所在地	解説・所感など
芦屋の民話の語りつき		むかしの人びとの喜びや悲しみを身近に感じる (CD作製版あり)
ぬえ塚	浜芦屋町	芦屋の民話「ぬえ塚の怪物」の舞台
ぬえ塚とその民話		源頼政のぬえ退治
打出	打出小槌町	打出の地名は「打出の小槌」の伝説もあるが、海浜に打ち出る地形の意と思われる。
打出小槌(町名)	打出小槌町	芦屋の伝説「打出の小槌」にちなむ。
伊勢物語		在原業平を主人公にした歌物語
在原業平の歌碑	松ノ内町	緑地内に業平の有名な桜をよんだ碑がある。 (市制50周年を記念)
公光・業平の祠	月若町	謡曲「雲林院」の舞台
世阿弥の謡曲「月若」と「藤栄」		芦屋が舞台の鎌倉時代の物語
業平と伊勢物語		日本の歌物語の代表作「伊勢物語」に芦屋の記述
月若町ほこら神社	月若町	芦屋の民話「業平と公光」ゆかりの地
万葉集と芦屋		万葉集巻9「あしやおとめ」の伝説
芦屋の民話の伝承されている場所		芦屋には20余の民話が伝えられていて、幾つかの伝承の場所も残っている。
芦屋の民話と史跡		
芦屋の民話にでてくる遺跡		金津山 <参考>・・・万葉集の「あしやおとめ」の伝承の地は、神戸市住吉の「東求女塚」、石屋川の「おとめ塚」、西灘の「西求女塚」の三つの塚のこと
城山(鷹尾城)	城山	中世の古戦場「鷹尾城」と「松若物語」の舞台
金津山古墳と黄金	春日町	全長約55m, 黄金埋蔵伝説の塚

芦屋の伝説&民話一覧

- ・ 芦屋^{うなひ}の菟原処女 (あしやおとめ)
- ・ 金兵衛車やけぐるま
- ・ 怪物の墓「ぬえ塚」
- ・ 芦屋谷のフカ切り岩
- ・ 月若と藤栄
- ・ 雲 林 院 (業平と公光)
- ・ 荒地山—七右衛門ぐら
- ・ 芦屋沖の龍灯
- ・ 六甲山の石宝殿
- ・ 猿丸太夫
- ・ 湯もとの薬師さん
- ・ 蛙 岩
- ・ 打出沖の海鳴り
- ・ 金津山の黄金
- ・ 打出の小槌
- ・ カラス塚の神事
- ・ 松若物語
- ・ 水番ときつねのちょうちん
- ・ ホタルがり
- ・ 高嶋池のがたろう
- ・ 観音さんに助けてもらった牛
- ・ 猿丸安時さんと奥池
- ・ 魚屋道 (ととやみち)



平成4年(1992)3月31日発行 絶版

表紙



平成11年(1999)7月20日発行
三好美佐子・著



裏表紙

D: 芦屋の郷土資料

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
旧三条村共有文書 (三条村古文書)	三条町	代々の三条村の代表者が管理, 村関係の古文書・絵図
芦屋の歴史関係資料		古文書をはじめ, 近現代資料・民俗生活文化資料等
芦屋の映像関係資料 (映画・ビデオ・写真など)		過去の市制記念日に作られた映画のほか, 芦屋市教育委員会企画・山本徹男氏制作の<VHSからDVDへ>「移りゆく芦屋」, 「水禍」, 「学童疎開」, 「文化財の発掘」など
市民寄贈のコレクション		三田谷啓氏・郷土玩具, 吉岡つた氏・考古資料, 池野良之助氏・六甲気象観測ノート・日誌等
阪神・淡路大震災における芦屋の 罹災・復興記録		震災を忘れず, 震災から学んだことを後世に伝えていく。
由緒ある町名		昭和19年(1944)の町名改正で, 芦屋市の歴史・文学などに由来する町名が多い。
芦屋市内の町名の由来		松浜は当時の白砂青松のようす。 めでたい打出小槌は松浜に打ち出た地形 業平・公光・親王塚など歴史上の人物の由来がある。
時々見かける赤ダルマポスト		1号丸型ポストは, 市内19カ所で見られる。 *赤い旧式の郵便ポストは市内にいくつかあるのでしょうか。 他のところでは見かけません。
県立芦屋高校の野球全国制覇		昭和27年(1952)夏の第34回全国高等学校野球選手権大会で優勝。甲子園から芦屋まで阪神国道は「祝優勝」の旗を手にした人びとであふれた。
打出焼(藤川コレクション)		打出焼は, 打出の良質の粘土で明治中頃から昭和40年頃まで作陶された特産品であった。藤川祐作氏は芦屋の歴史の研究者であり, 打出焼も長年にわたる収集の成果となっている。
三条・西山・山芦屋の成り立ち		三条は, 京都の三条や奈良時代の条里制によるなど。西山は, むかしの西芦屋の山手にあることから。山芦屋はむかしの芦屋村で農地のひらけたところ。
日中平和友好の碑	浜芦屋町	芦屋公園内
葦屋郷と賀美郷		平安時代の「和名抄」に市域の東に賀美郷, 西に葦屋郷
藤井重夫氏城郭関係寄贈資料		芦屋を中心とする全国各地の石切場, 城関係資料で唯一無二のもの
橋の名前のゆかり・言い伝え		その土地の字名や歴史・文学などに由来する名が多い。

E: 芦屋ゆかりの芸術・文化



『細雪』の碑

E: 芦屋ゆかりの芸術・文化

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
芦屋川カレッジ		芦屋市公民館事業の生涯学習講座で、受講期間は一年間
芦屋川カレッジと学友会の組織		学友会は満60歳以上の芦屋市民であれば、誰でも会員になることができる。芦屋川カレッジの各修了期性で結成される同期会も、規約の趣旨に賛同する一般市民高齢者ならば、入会することができる。芦屋市の高齢市民対象の人間力の育成と地域力の向上を目指して活動している。
芦屋川カレッジ同期会		*芦屋川カレッジと学友会は、他市にない組織でシルバー世代の交流仲間づくりにとっても役立っていると思う。 この組織が未来に続くことにより、芦屋市民が高齢化しても芦屋市は活性化していくと思う。
谷崎潤一郎記念館	伊勢町	1988年10月、文豪谷崎潤一郎記念館開館「細雪」碑(1986)、富田碎花旧居に谷崎時代の松・灯籠
芦屋市立美術博物館	伊勢町	市制施行50周年を記念して創立された芦屋文化の殿堂
富田碎花旧居	宮川町	芦屋市に寄贈の膨大な碎花の資料を順次公開 昭和62年(1987)碎花生誕100年に開館、平成2年(1990)「富田碎花賞」創設
白い三条(歌)		三条小学校愛唱歌
『細雪』		谷崎潤一郎の作品で芦屋山手が舞台となっている。
芦屋市立図書館	伊勢町	昭和24年(1949)開館の歴史のある図書館は、現在、市の文化ゾーンの一角を占め、館内には30万冊の図書を集めている。
俵美術館	月若町	古来の携帯筆記「矢立」や古文房具、浮世絵などのコレクション
コミュニティスクール		生涯学習の一環として小学校を、学校の教育活動に支障のない範囲で地域住民に開放している。芦屋市内に9コミスクある。
三条コミュニティスクール	三条地域	1978年新設の三条小学校に設置された市内初のコミスク。
三条コミュニティスクール四季の活動	三条地域	1999年に三条小学校が廃校になった今も、地域住民で活発に活動している。
細雪の碑	東芦屋町	開森橋東詰にある碑、題字は谷崎松子夫人、碑の裏面に「細雪」水害の一節が刻まれている。
ルナ・ホール	業平町	1970年、円形舞台も使える多目的ホールとして建設された。
高浜虚子記念文学館	平田町	2000年に開館、近代俳句の確立に尽くした虚子の足跡をたどる建物は、地上2階・地下1階、正岡子規の資料も展示
美術博物館・各記念館	伊勢町	伊勢町の文化ゾーン内に美術博物館、谷崎潤一郎記念館があり、歴史・文学・美術資料を集集・公開展示・調査研究が行われている。
芦屋図書館と細雪碑	伊勢町 東芦屋町	上記、「芦屋市立図書館」「細雪の碑」参照
芦屋の芸術(押し絵)		初代小西絹甫(雅流)より始まる。
エンバ中国近代美術館	奥池町	奥池の自然に囲まれたところにある美術館で、中国清朝末期から現代に至る陶磁・染織・絵画などを展示

E: 芦屋ゆかりの芸術・文化

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
市民センター	業平町	市民文化活動の拠点。1963年市民会館竣工。1970年ルナ・ホール建設。市民センターは市民会館、公民館、ルナ・ホールの複合施設
精道小学校	精道町	明治5年(1872)開校、芦屋の学校の長い歴史
浜風小学校	浜風町	1982年創立、シーサイドタウンの東半分が校区
芦屋の小説上の登場場面		例: 細雪等
谷崎潤一郎邸の跡	若宮町	詩人・富田碎花旧居
芦屋国際ローンテニスクラブ	松浜町	昭和31年(1956)開設、第11回国体の会場
福山記念館(芦屋学園内)	六麓荘町	元芦屋国際ホテルは、昭和12年(1937)建設
美術博物館近辺	伊勢町	美術博物館、谷崎記念館、図書館が集積する文教地区
文化ゾーン	伊勢町	
山手小学校の白き塔	山手町	昭和9年(1934)開校当時、軍艦の司令塔を形どった塔屋
山手中学校	三条町	自然の豊かな環境の中で1947年に開校した。白い時計台が象徴的
臨港線堤防のアート		市制施行50周年イベントとして実施
美術博物館所蔵の芦屋ゆかりの美術品	伊勢町	小出楯重・吉原治良など芦屋にゆかりのある芸術家の作品を見ることができる。

F: 顕彰すべき人物



東京三越手工芸展覧会にて美智子妃殿下をお迎えし、ご案内する廣瀬勝代会長

昭和40年（1965）

F:顕彰すべき人物

名称	フリガナ	解説・所感など
廣瀬勝代	ヒロセカツヨ	<p>明治28年(1895)～昭和59年(1984)「父の日」や、芦屋駅(国鉄)に快速を停める運動に尽力をされたことは言うに及ばず、芦屋文化の貢献につくした。芦屋市婦人会長、兵庫県連合婦人会長、日本赤十字奉仕団長、芦屋ユネスコ協会会長</p> <p>◎廣瀬勝代と芦屋ユネスコ協会 1945年、国連にユネスコが創設された当時、アメリカ在住の元ICU総長の湯浅八郎氏が日本にもユネスコ精神の必要性を感じ、翌年帰国後 芦屋の廣瀬勝代を訪問し、ユネスコ協力団体設立を要請した。婦人会・日赤奉仕団の活動の中でその趣旨を生かすべく、仙台の従姉妹氏家愛子氏に湯浅氏の意向を伝え、世界初の民間ユネスコ協力団体を仙台に誕生させた後、芦屋ユネスコ協会は1947年8月1日に発足した。</p>
在原業平	アリワラナリヒラ	日本の歌物語の代表作「伊勢物語」に業平と芦屋の里のゆかりの記述
吉原治良	ヨシハラジロウ	「具体」の創始者。明治38年(1905)大阪生まれ。生家は老舗の油問屋。上山二郎に兄事し、二科展に出品する。1948年、芦屋市美術協会創立、代表となる。1954年、具体美術協会を結成
貴志康一	キシコウイチ	明治42年(1909)大阪府吹田市生まれの音楽家。家族とともに浜芦屋の洋館に移り幼少期よりヴァイオリンを習う。甲南高校からジュネーブ音楽院卒業後、海外で活躍するも28才で夭折する。
小出楯重	コイデナラシゲ	画家、絶筆「枯木のある風景」 アトリエは美術博物館の庭園に復元されている。
谷崎潤一郎	タニザキ ジュンイチロウ	作家。市内宮川町には昭和9年(1934)から約2年間現・富田碎花旧居に居住。「現代語訳 源氏物語」などを執筆。「細雪碑」が開森橋東詰に、谷崎潤一郎記念館が文化ゾーンにある。
村上春樹	ムラカミハルキ	小説「風の歌を聴け」では“おさる”の公園(打出公園)がモデルといわれる。
富田碎花	トミタサイカ	詩人。「兵庫県文化の父」と呼ばれた。 富田碎花旧居は昭和62年(1987)碎花生誕100年に開館し、芦屋市に寄贈のぼう大な碎花の資料を順次公開している。 平成2年(1990)「富田碎花賞」創設
猿丸太夫	サルマルダマユウ	百人一首で知られた猿丸太夫は芦屋に住んだと伝えられている。芦屋には旧家の猿丸家がある。 伝猿丸太夫之石塔もある。
猿丸安時	サルマルヤストキ	水争いを解消するため、20年の歳月をかけて奥池の開削に成功した。奥池に安時水神の祠があり、頌徳碑は東芦屋町にある。
高濱虚子	タカハマキョシ	近代俳句の巨匠、虚子記念館、三代句碑(虚子・年尾・汀子)
中山岩太	ナカヤマイワタ	東京美術学校写真科を首席で卒業。パリ渡航後芦屋に移住。ハナヤ勘兵衛らと芦屋カメラクラブを結成する。

F: 顕彰すべき人物

名称	フリガナ	解説・所感など
長谷川三郎	ハセガワサブロウ	明治39年(1906)山口県生まれ。青年時に芦屋在住。東京帝国大学で美術史を専攻。画家と同時に美学者として活躍した。
原 笙子	ハラショウコ	女人舞楽
ゴロゴロ岳にある人間灯台跡 (池野良之助)	イケノリョウノスケ	昭和10年(1935)～昭和48年(1973)まで、38年間にわたり気象観測と山火事看視に従事した池野良之助技官、地上17メートルの望楼の跡(国有林) 詳細な日誌記録が美術博物館に保管されている。
生田春月	イクタシュンゲツ	詩人、ドイツ文学研究者、「芦屋にて」の作品
大橋エレナ	オオハシエレナ	画家
大森一樹	オオモリカスキ	映画監督
小川洋子	オガワヨウコ	小説家
児玉隆男	コタマタカオ	画家、歌人、芦屋の精道村時代・農村風景などを自然を10冊のスケッチブックに遺す。
小西絹甫	コニシケンポ	押絵
白洲次郎	シラスジロウ	一時、精道小学校に在籍し、戦後、吉田茂首相の側近をつとめた。正子夫人は文筆家として有名
須賀敦子	スガアツコ	随筆家
菅井 汲	スガイタミ	洋画家
杉山平一	スギヤマヘイチ	詩人・映画批評家、富田碎花賞選考委員
田中千代	タナカチヨ	ファッション界の草分け、吉原治良・中山岩太とも交流
徳田秋声	トクダシュウセイ	大正9年(1920)芦屋を訪れた「蒼白い月」の作品
中山文甫	ナカヤマブンポ	華道 未生流
丹羽安喜子	ニワアキコ	歌人、松浜町に住んだ。与謝野寛・晶子に師事
ハナヤ勘兵衛	ハナヤカンベイ	明治36年(1903)大阪生まれ。本名桑田和雄。1929年芦屋に写真材料店開設。翌年、中山岩太らと芦屋カメラクラブを結成。芦屋市美術協会の創立会員でもあった。
藤木九三	フジキクツウ	登山家、ジャーナリスト、大正13年(1924)RCC結成、高座の瀧にレリーフ
柳沢健	ヤナギサワケン	詩人・外交官・随筆家など、富田碎花と交流深い。「芦屋風景」の詩
山口誓子	ヤマグチセイシ	俳人・精道村時代芦屋八田で静養
山田皓斎	ヤマダコウサイ	明治39年(1906)大阪生まれ、本名兵一。東京美術学校卒業後、洋画・日本画の枠を超えて活躍し、芦屋に転居する。芦屋市美術協会の創立に参画
吉沢独陽	ヨシザワトクヨウ	詩人・西山町に聖樹葉詩園を経営。「日本詩壇」創刊

G: 芦屋のまつり



芦屋のだんじり

G: 芦屋のまつり

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
だんじり		芦屋の地車は「西之町地車同好会」「打出総代会地車保存会」「三条地区地車愛好会」「精道地区地車保存会」「山之町地車愛好会」の5団体で保存されている。 毎年10月第2日曜日の秋祭りには、5つの地車が一同に集まり、そろいの法被での巡行、勇壮な練り回しを市民に披露している。 囃子は江戸期からの伝統を受け継ぐが、お伊勢参り音頭のものもある。 *昔ながらのだんじり祭りをはじめ、地域に密着した行事は未来に残したい。
だんじり祭り		
あしや祭り(だんじり)		
だんじりまつり(秋まつり)		
三条・山之町・西之町・打出・精道・各地車		
市内地車五会		
芦屋の秋まつりに関わる山車		
3つのだんじり		
三条だんじり	三条地域	
西之町だんじり	三条地域	
山之町だんじり	三条地域	
さくらまつり(桜)		「芦屋川のさくら」として、芦屋市民はじめ阪神間の住民に定着 *「芦屋さくらまつり」は芦屋市民はじめ、阪神間の住民に定着している。未来へ残したい。
サマーカーニバル		夏の花火大会として定着。芦屋沖から夜空に打ち上げられる花火会場周辺は、盆おどり・夜店などで盛り上がる。
芦屋(夏)の花火 (サマーカーニバルで)		
芦屋三大祭り		さくらまつり・サマーカーニバル・秋まつり
山まつり	奥池	毎年5月に新緑の中で、ハイキングやイベントを楽しむ。
芦屋のまつり		
まつり		
芦屋秋・夏祭り, 地藏盆		
伊勢講の祭壇とその儀式	三条町	
生活習慣(祭り・地藏盆・民話)		江戸時代から芦屋地方には、貴重な生活様式が伝えられている。
打出神社の太鼓	打出小槌町	

H: 芦屋の災害



阪神・淡路大震災 慰霊と復興のモニュメント

H:芦屋の災害

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
昔の芦屋の海沿いに作られた防波堤道路(今は健康道路)	芦屋浜	芦屋浜は埋め立てられ、防波堤の役割を終えた。
昭和13年集中豪雨と「細雪」のその記述		開森橋東詰に「阪神大水害決壊の地」の碑と「細雪」碑の裏面に豪雨の様子がきざまれている。
昭和の度重なる大水害		昭和9年(1934) 風水害(室戸台風) 昭和13年(1938) 阪神大水害 昭和25年(1950) ジェーン台風
芦屋川の治水事業(砂防ダムなど)	芦屋川	六甲山は断層が多く花崗岩の風化が進み、治山治水のため、多くの砂防ダムがつくられている。
芦屋川堰提 (二段・ルナホール西側)	芦屋川	
なまず岩	奥山	芦屋川の上流、弁天岩付近の道路からも見られる西側に「なまず岩」と呼ばれた巨岩がある。震災時に荒地山の山頂部から落下したもの。
なまずいし・震災で落ちてきた巨岩	奥山 精道線	
甲陽断層		芦屋市と西宮市の境界付近、阪急沿線ぞいの高塚山の西斜面に工事によって甲陽断層が見つかった。地層のたわみの様子などが見られる。 *甲陽断層は高塚山・仲ノ池・ドンドン川・岩園公園などに露頭や湧水、川の屈曲などがみられます。 地震時の段差もみられました。 阪神大震災を忘れないためにも残していくべき。
震災復興に伴う区画整理によって作られた街並		*多くの人が多額の苦難・犠牲を乗り越えたものであるから。
震災とそのあとの復興		平成7年(1995)1月17日 阪神淡路大震災発生
津知公園	津知町	震災時にはテント村ができ、ここで避難する人も多かった。
戦災による 学童疎開		昭和20年(1945)7月、精道・宮川両国民学校は、岡山県下に学童疎開(3年生～6年生)が行われた。
戦災による 空襲の被害		昭和20年(1945)5月から8月にかけての阪神大空襲によって罹災者は、総人口の約5割、家屋は約4割、学校は8割を失った。芦屋霊園に「太平洋戦争空爆殉難者之墓」が建設されている。

I: 芦屋のモダニズムとライフスタイル



昭和2年(1927)当時の芦屋警察署正面玄関

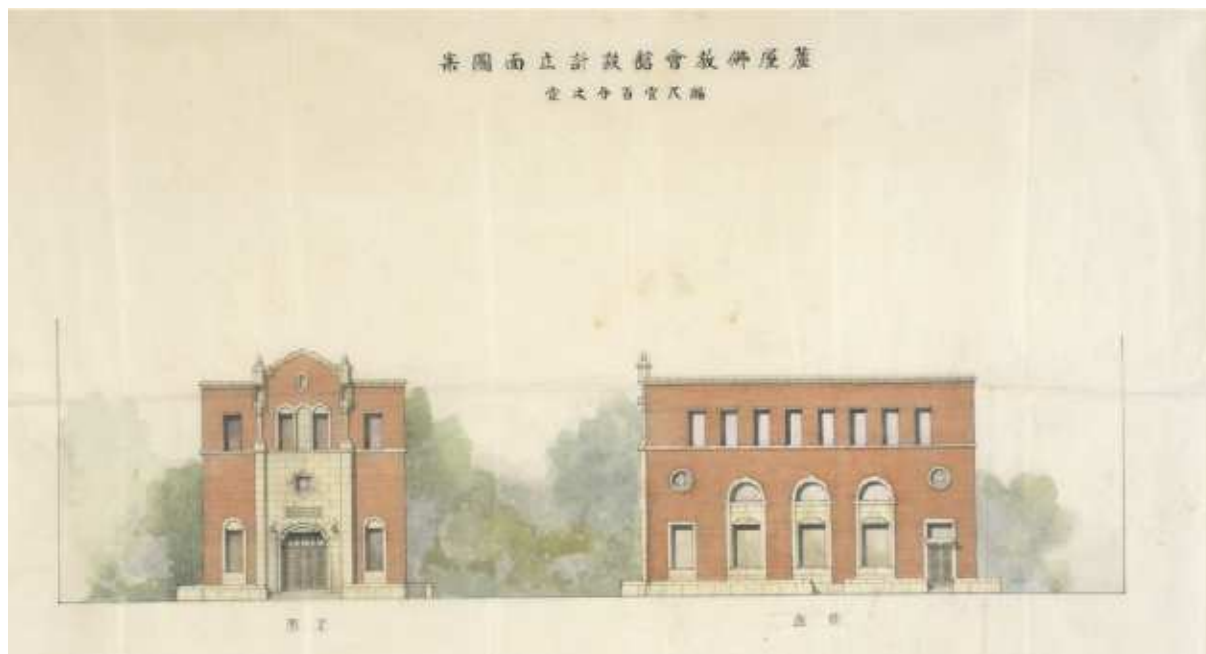
コラム『芦屋のモダニズムとライフスタイル』

大阪と神戸の間に位置する芦屋は、阪神間モダニズムの中心とも言える存在です。そして、山と海を背景に風光明媚で気候温暖なロケーションは南仏ニースにも例えられる日本屈指の住宅都市へと発展を遂げました。

明治末年から大正にかけて、阪神・国鉄（JR）・阪急の順に駅舎が設置され、移住者は増加の一途をたどります。そのなかで、単に外来の洋風建築を真似るだけではなく、地域風土に根ざした和洋折衷とも言える阪神間特有のモダニズム建築が生まれ、芦屋はその中心地ともいえる存在となりました。

今日、確認できる代表的な建築として、フランク・ロイド・ライト設計の重要文化財住宅ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）¹、芦屋仏教会館²、芦屋市立図書館打出分室（旧松山家住宅）³、滴翠美術館（山口吉郎兵衛邸）、などがあります。

注）1・2・3は編集の都合上“B：芦屋の史跡と文化財”に分類



芦屋仏教会館設計図面（芦屋市立美術博物館蔵）

I: 芦屋のモダニズムとライフスタイル

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
カトリック芦屋教会	公光町	芦屋川畔の代表的な景観
芦屋警察署旧玄関(旧庁舎)	公光町	昭和2年(1927)建築の警察署旧玄関付近のたたずまいとみみずくの彫刻 *芦屋警察署の旧館部分のみみずくのシンボルが市民を守っているよう。
六麓荘	六麓荘町	昭和4年(1929),株式会社六麓荘は新しい住宅のまちを建設。そのパンフレットに「六麓荘は、大自然の庭園のようにめぐまれた健康地」として紹介された。六麓荘町は明るい空とみどり、ベージュ色の花崗岩が映える近代住宅地。
六麓荘の住宅街	六麓荘町	
六麓荘の意匠を凝らした九橋	六麓荘町	
六麓荘の電燈	六麓荘町	
各所のお屋敷(特に街中)		
ウォーターパーク	陽光町	南芦屋浜下水処理場
ヨットハーバー(マリーナ)	海洋町	レストランのあるクラブハウスが整備され、大型のヨットやクルーザーが係留されている。
海浜地区高層住宅		ヨットハーバーを含む。
ベルポート芦屋	海洋町	南芦屋浜にあるマリーナを中心とする複合施設
ベルポート芦屋北側岸壁	海洋町	
滴翠美術館の建物	山芦屋町	昭和8年(1933),山口吉郎兵衛氏の邸宅として建設,鉄筋コンクリート3階建
重信医院の建物	西山町	名作「細雪」中,櫛田医院のモデルとなった建物
ゴミのない美しい街並み		
ダストシュートシステム		芦屋浜・南芦屋浜に設置
芦屋大学の建物	六麓荘町	旧芦屋国際ホテル
芦屋大学旧ホテル別館	六麓荘町	
三田谷学園(三田谷治療教育院)	楠町	「身体や精神の発達不十分なる子どもを収容して身体を丈夫にさせ学力の増進をはかり道徳性を涵養する」ことを目的に,三田谷啓氏が創設した施設
小学校の給食(最高・日本一)		月1回,市内8校の栄養士が集まって献立研究会が開かれている。
あゆみ橋(スーパー防犯灯)		
阪神芦屋駅	公光町	明治38年(1905)開設 南側に市役所前花壇があり,集合場所に良い。
JR芦屋駅	船戸町	芦屋駅設置は大正2年(1913),市の中心部に当たる。
阪急芦屋川駅	月若町	阪神急行電気鉄道(旧名)神戸本線,大正9年(1920)開通
旧藤井邸	山手町	山手緑地内 洋館保存 庭は整備され,憩いの場になっている。
京極小児科病院	楠町	
阪急芦屋川駅近くのコンビニ		

I: 芦屋のモダニズムとライフスタイル

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
シーサイドタウン	芦屋浜	1979年に高浜・若葉町の県営住宅から入居が開始され、2009年には30周年を迎えた埋め立て地
高浜・若葉町団地	高浜町 若葉町	*シーサイドタウンは芦屋に来て一番、目についた建物。関空からも見えることにビックリしました。
芦屋市民プール	朝日ヶ丘町	正式名称は「朝日ヶ丘公園水泳プール」
芦屋川発電所の水路		
芦屋スカウト会館	茶屋之町	芦屋市内のボーイスカウト・ガールスカウト各団の集会所
タウンハウス	潮見町・緑町	
芦屋の歴史上の建物		貴重な和・洋の建物、大正時代では旧山邑家住宅をはじめ登録文化財など
ケーキとパンが有名な街		
治安の良さ 警察の出動時間の早さ		常に「住んでみたいまち」の上位に、ランクされている。
芦屋学園近くの家の天使像	六麓荘町	
中山家住宅	三条町	
中山重工業の建物	山芦屋町	
西山幼稚園のスズメのついた屋根	西山町	
岩園町の農地	岩園町	*岩園町の農地では、田んぼや畑は新鮮な収穫を提供してくれます。数軒の方ががんばっておられます。
「芦屋公園南」信号北側に残るかつての海辺の売店(木造)	松浜町	
芦屋のモダニズム		1920年代から30年代、芦屋は大阪・神戸両都市のモダニズム文化の交差点となり、花開いた。
山手サンモール	西山町	*阪急北側の山手サンモールは、古いお寺や医院が点在しており、今に残るよき商店街
打出商店街	打出	
㈱サンアール所有の洋館建物	平田町	芦屋川ぬえ塚橋西南
平田町芦屋川沿いの洋館	平田町	河川に沿った道路とみどりの中の石垣と建物の風景が美しい。
あちこちのしゃれたレストラン		
ハイキング		ハイキングコースには笹が多く、かき分けて進むときがあるので長袖・長ズボン着用が好ましい。
松林の中のテニスクラブ	松浜町	昭和31年(1956)開設、第11回国体の会場
ラジオ体操のべ5000人のつどい		
◎今はないもの		
芦屋児童の村小学校 (1926～1938年)	前田町	大正15年(1926)、御影から移転。昭和13年(1938)まで存続。一室ごとに別棟建の住宅式を採用。新教育の名をうたわれ、児童の個性を伸ばすことを基本理念とした。

J:その他



精道村役場



現在の芦屋市役所

J:その他

名称	市内所在地	解説・所感など
芦屋市役所	精道町	昭和35年(1960)8月 市制施行20周年のとき(現北館) 鉄筋地上4階 地下1階 建設 昭和43年(1968)9月 分庁舎竣工 鉄筋地上3階 地下1階 建設 平成2年(1990)11月 市制施行50周年のとき(南館) 鉄筋地上4階 地下3階 建設
大谷茶屋	高座の滝 周辺	ロックガーデンの自然に囲まれた高座の滝のそばにあり、ハイカーたちが行き交うところ。茶屋に置かれたノートに歴史を知る。
芦屋川で遊ぶこどもたち		芦屋市では、子どもたちの人間力・文化力の向上に努めている。
形にとらわれない子供の笑顔		
障害のある子供達が安心して暮らせる芦屋		
子供たちのあいさつ運動		
芦屋の食べ物		
足湯(南芦屋浜・新芦屋温泉)	南芦屋浜 呉川町	足湯は無料で利用できる。
アステム建物群	芦屋浜	
ラポルテのからくり時計	船戸町	JR芦屋駅前のモニュメント
現在の環境を未来に受け継いで 行って欲しい		
県立芦屋高校	宮川町	「自治・自由・創造」を教育綱領としており、創立以来自由な校風を特徴としている。
県立芦屋高校 国際学部	宮川町	
高齢者と共に安全な生活を		高齢者の総合相談窓口として「高齢者生活支援センター」がある。
戦時下の芦屋と戦後の復興		戦時中から戦後の困難を乗り越えた、国際文化住宅都市への発展
阪急芦屋川駅のトイレ	西山町	車イス・オストメイト対応 ベビーベッド・ベビーキープあり (オストメイトとは人工肛門・人工膀胱保有者のこと)
翠ヶ丘町の空に架かる道路ミラー	翠ヶ丘町	
通りにステキな名前が ついてるところ		市民から愛称を募集し、選考委員会で決定された道を「愛称道路」と呼んでいる。
阪急芦屋川近くの市バス		阪急バス
パチンコのない駅前		
もっときれいにしたら良い花時計	西山町	阪急芦屋川駅前
老人クラブ連合会		現在51の地域(単位)老人クラブがある。

J:その他

*は市民のご意見

名称	市内所在地	解説・所感など
おさる公園(打出公園)の檻	打出小槌町	サルはもういないが、檻だけが残されている。
		<p>*市民の立場で、子ども達へ伝える芦屋の未来遺産を選ぶという企画は、我々市民も郷土愛の心と誇りをもって内外に情報発信でき、大変喜ばしく 期待しています。</p> <p>*芦屋は心安まるやさしい街だと、結婚していろんな街を見てきた私は思い感じます。</p>
◎今はないもの		
芦屋からなくなったユネスコ会館	奥池付近	奥池近くに1964年、国際理解のつどいなどを展開する場として建設されたが、その後企業の保存となり、1993年9月に火災で焼失した。
戦後のドカン住宅地	伊勢町	現芦屋市立美術博物館敷地 (ヒューム管)

付 属 資 料

2010年3月 日

芦屋ユネスコ協会
会長 廣瀬 忠子

平素は、芦屋ユネスコ協会の活動にご支援ご協力を頂き有難く感謝申し上げます。

さて今般、日本ユネスコ協会連盟が100年後の子どもたちへ、長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域(ふるさと)の文化・自然の遺産を伝える「未来遺産運動」を提唱しており、自分のふるさとの伝統と文化の素晴らしさを学び、誇りと愛着を持ち継承してゆく「未来遺産運動」を国民的な運動として展開していきたいと呼びかけています。

私たちの住む芦屋は、自然遺産・史跡と文化財・民話と歌物語・郷土資料・芸術文化・顕彰すべき人物・モダニズムとライフスタイル・災害経験もふくめ、日本でも誇りのもてる素晴らしい多くの未来へ伝える遺産を有する街です。芦屋ユネスコ協会では、芦屋市制施行70周年を記念して、皆さんに今回、未来に伝えたい芦屋の未来遺産を選んで頂き、それらを全てリストアップするとともに、100年後の未来までも芦屋市民の誇りとし大事に保全し、継承して参りたいと思っています。

つきましては、広く市民の皆様へ、この運動にご協力頂き同封の応募用紙に「私が選ぶ芦屋の未来遺産」を列記頂き、FAXでお送り頂きますようお願い申し上げます。お一人様何件でも結構ですし用紙不足の場合、別用紙に追記してご送付下さい。

なお、応募締め切りは、6月末ですので早めにご応募下さい。その後、皆様のご意向をもれなくリストアップし分野別に分類して一覧表に仕上げ、結果を平成22年11月頃発表させていただきます。

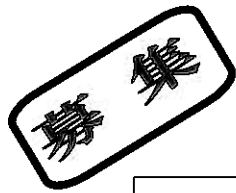
この運動にご協力頂き、芦屋がいかに素晴らしい街かを再確認して頂くとともに誇りにし、わが街「芦屋」を全国に発信して参りたいと思います。

芦屋ユネスコ協会の活動に、この「芦屋の未来遺産運動」が加わる事で、より充実したユネスコ活動が展開され、市民の皆さまの理解と協力が得られるよう頑張っていきたいと思っておりますので引き続きご支援ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

ーお願いー

私が選ぶ芦屋の未来遺産にぜひ、ご応募下さい。

ご応募用紙を同封させて頂いています。



芦屋文化の百年リレー

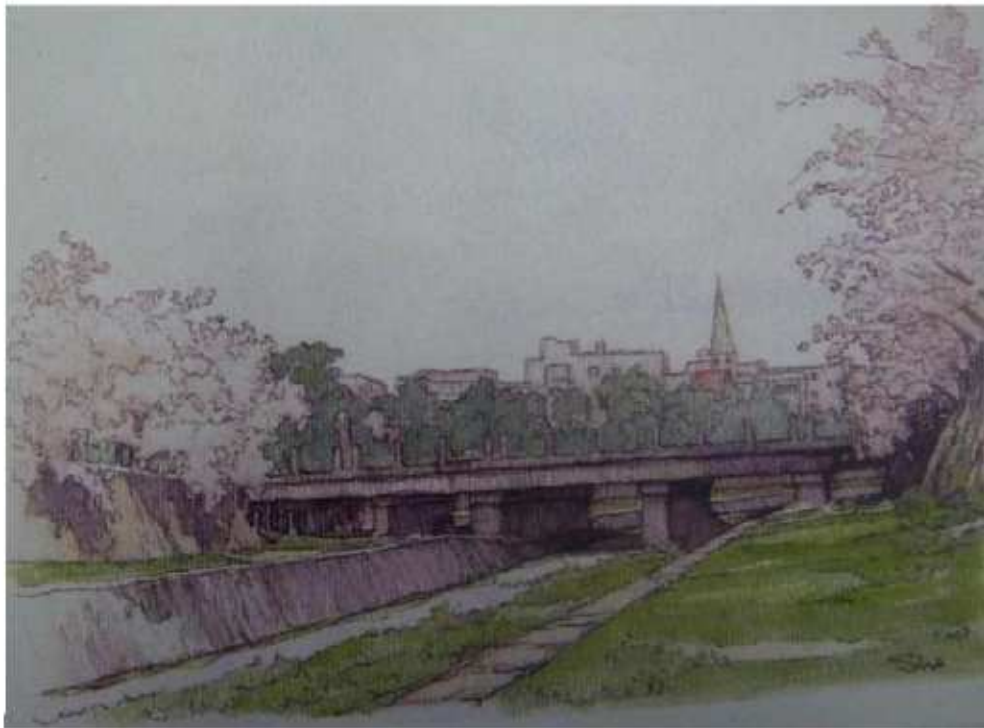
市民が選ぶ芦屋の未来遺産

芦屋市制施行 70 周年を記念して、芦屋の文化・自然遺産を 100 年後の芦屋の子どもたちへ伝えて行く運動です。

その対象になる「芦屋の未来遺産」を選んで応募して下さい。

◎芦屋の自然遺産◎芦屋の史跡と文化財◎芦屋の民話と歌物語◎芦屋の郷土資料◎芦屋ゆかりの芸術・文化◎顕彰すべき人物◎芦屋の祭り◎芦屋の災害◎芦屋のモダニズムとライフスタイル などなど

応募して頂いたものを、もれなくリストアップして顕彰し、100 年後まで芦屋市民の誇りとし大事に保全し、継承していきます。



※応募は裏面の「応募用紙」に記入して下記へFAXして下さい。

応募対象者：市内在住・在勤・在学の方 募集期間：平成 22 年 3 月 1 日～6 月 30 日
(結果は平成 22 年 11 月頃の予定)

芦屋ユネスコ協会 事務局 (芦屋市教育委員会 生涯学習課内)

FAX (0797)38-2089 問合せ:電話(0797)38-2091

平成 年 月 日

芦屋ユネスコ協会事務局 あて

私が選ぶ芦屋の未来遺産

一つでも二つでも、思いついた分だけご記入いただいてご応募下さい。

* 差し支えなければ、ご記入ください。

氏名:

NO.	私が選ぶ芦屋の未来遺産	思いや理由などがあれば記入してください
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

* その他 ご意向・ご意見を自由にお書き下さい

応募締め切り:平成22年6月30日

◎FAXにて下記に送信してください。

0797-38-2089

問い合わせ・連絡先: 芦屋市教育委員会 生涯学習課内 芦屋ユネスコ協会事務局

(電話:0797-38-2091 FAX:0797-38-2089)

芦屋未来遺産運動「市民が選ぶ芦屋の未来遺産」策定経過

- 平成 21 年 10 月 30 日
「未来遺産運動 活動委員会」発足構想事前協議 開催
- 平成 21 年 12 月 17 日
第 1 回 芦屋未来遺産運動準備委員会 開催
- 平成 22 年 1 月 26 日
第 2 回 芦屋未来遺産運動準備委員会 開催
- 平成 22 年 2 月 23 日
第 3 回 芦屋未来遺産運動準備委員会 開催
- 平成 22 年 4 月 27 日
第 1 回 芦屋未来遺産運動推進委員会 開催
- 平成 22 年 5 月 25 日
第 2 回 芦屋未来遺産運動推進委員会 開催
- 平成 22 年 6 月 29 日
第 3 回 芦屋未来遺産運動推進委員会 開催
- 平成 22 年 7 月 27 日
第 4 回 芦屋未来遺産運動推進委員会 開催
- 平成 22 年 8 月 31 日
第 5 回 芦屋未来遺産運動推進委員会 開催
- 平成 22 年 9 月 28 日
第 6 回 芦屋未来遺産運動推進委員会 開催
- 平成 22 年 10 月 26 日
第 7 回 芦屋未来遺産運動推進委員会 開催

芦屋未来遺産運動推進委員会 委員名簿

役 職	名 前
委員長	廣瀬 忠子
副委員長	森 隆資
	上野 義治
委 員	中川 明
	永井 緑子
	徳矢 暁子
専門委員	信岡 利英
	岩本 昌三
	明尾 圭造
事務局長	山田 利郎

事務局	
社会教育部長	橋本 達広
生涯学習課長	細井 良幸
生涯学習課主査	船曳 純子
	竹内 典子
ユネスコ担当	佐藤眞由美

アドバイザー	
芦屋市経済課長	越智 恭宏
芦屋市教育委員会学校教育課長	北野 章
芦屋市広報課 課長補佐	南 ゆう子
芦屋市教育委員会 生涯学習課学芸員	森岡 秀人

協力者	
元打出教育文化センター 主幹 芦屋市環境づくり推進会議委員	古市 景一
画 家	井上 正三

芦屋未来遺産運動推進委員会設置要綱

(設置)

第1条 芦屋ユネスコ協会は、芦屋市の長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を未来遺産とし、未来を託す子どもたちに伝える運動を進めるため、芦屋未来遺産運動推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 芦屋未来遺産運動の推進に関すること
- (2) その他設置目的達成のために必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、10人以内の委員をもって組織する。

2 委員会の委員は、次に掲げる者で構成する。

- (1) 芦屋ユネスコ協会会員
- (2) 学識経験者
- (3) 地域関係者

(任期)

第4条 委員の任期は、平成22年11月30日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、会長をもってこれに充てる。副委員長は、委員の中から委員長が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その会議の議長となる。

2 委員会は、委員の過半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会において、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(分科会)

第7条 委員会に分科会を設置することができる。

2 分科会に座長を置き，座長は分科会の構成員の互選により定める。

3 分科会の招集は，分科会の座長が行う。

(事務局)

第8条 委員会の庶務は，芦屋ユネスコ協会の事務局において行う。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は，平成21年12月6日から施行する。

附 則

この要綱は，平成22年2月23日から施行する。

おわりに

芦屋ユネスコ協会が、(社)日本ユネスコ協会連盟が提唱する100年後の子ども達に伝えたい「未来遺産運動」に呼応して、芦屋市の「未来遺産」を設定することを始めたのは2009年10月でした。

その後の活動経緯は頁59の芦屋未来遺産運動「市民が選ぶ芦屋の未来遺産」策定経過に詳しく記されています。

さらに特筆すべきは、頁60に示されている委員の構成で、芦屋市の職員が多数参加いただいたこと、また芦屋の動・植物に詳しい古市景一先生にもご参加いただいたことなど、多くの人びとの協力をいただいたことでした。

発行までの日々を振り返りますと、次のような経緯がありました。

【本委員会の活動】

遺産名応募用紙を約8,000枚作成し、委員会のメンバーが手分けして、市内の学校・医師会・商工会・市役所関連などを通して、多くの市民に配る努力をするとともに、その回収に当たりました。

集められた用紙は項目毎に分類されましたが、この分類は専門委員の岩本昌三氏、明尾圭造氏に分類していただきました。

これらの整理・印刷は芦屋市教育委員会が中心になって、実動作業を分担いただいたことに深くお礼申し上げます。

【(社)日本ユネスコ協会未来遺産運動「第2回プロジェクト応募」への対応】

(社)日本ユネスコ協会が進めるプロジェクト「未来遺産運動」への申請団体の推薦を行いました。

委員会として、長年市民の文化活動の母体団体として活躍されている「芦屋川カレッジ学友会」を推薦させていただきました。

応募に際し、膨大な添付資料の作成に関しては、同学友会の会長信岡利英氏の献身的な御努力に負う所が大きく、敬意を表します。

【編集された「芦屋の未来遺産」の今後について】

芦屋市制70周年を記念して、芦屋ユネスコ協会の廣瀬会長から山中市長に手渡されるとともに、市内の学校・図書館・公共機関に贈呈させていただきます。

なお、当委員会としては市民目線で編さんされた、本小冊子の内容を定期的に見直し、常に最新の情報を追加して、100年後に伝えることが大切と考えております。

つきましては、芦屋市民各位の芦屋ユネスコ協会へのさらなるご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2010年11月

芦屋未来遺産運動推進委員会

副委員長 森 隆資

みんなで選んだ

芦屋の未来遺産

～芦屋文化の100年リレー～

2010年11月発行

編集・発行：芦屋ユネスコ協会

659-8501 芦屋市精道町7-6

芦屋市教育委員会 社会教育部

生涯学習課内 TEL:0797-38-2091